

一般質問通告書

佐野市議会議長 様

受付	番号	17
	令和	7年 2月 5日
	午前・午後	2時55分

議会名	令和 7年 第 2回 佐野市議会定例会		
発言者	議席番号	4番	小森 隆一
答弁を求める者 (選択してください)	市長 ・ 副市長 ・ 教育長 ・ 担当部局長		
一般質問時に使用する資料の有無 (選択してください)	あり (資料提示 ・ 資料配付 ・ モニター使用) なし		
大項目 (質問項目) 中項目 (質問細目)	小項目 (具体的な質問内容)		
1. 带状疱疹ワクチン接種について (1) 带状疱疹ワクチン公費助成事業について (2) 带状疱疹ワクチン定期接種化について	<p>①本市における本事業での接種実績について、全体の接種人数、年齢層別の接種人数、生ワクチン、不活化ワクチンの選択比率について、伺う。</p> <p>②国の带状疱疹疫学の大規模調査によると、女性の方が男性より罹患率が高いとのデータも示されているが、見解を伺う。</p> <p>①带状疱疹ワクチンについては、国の審議会において来年度定期接種化が了承されている。その中で、各種報道では接種年齢が「65歳」との記載がされているが、定期接種化後の対象年齢についての見解を伺う。</p> <p>②この带状疱疹ワクチンは、公衆衛生上、必要なワクチンであると位置付けられ、発症時の重症化を予防する目的で定期接種化される事が了承されている。その意味で、带状疱疹の合併症として、発疹が治った後でも、長期にわたり日常生活に影響を及ぼす、带状疱疹後神経痛 (PHN) について、50歳代、60歳代でも後遺症として残る割合は変わらないと報告されている事から、また、現在の公費助成事業の対象年齢が50歳以上である状況も含め、市民の健康増進の観点で、定期</p>		

<p>2. 小中学校適正規模・適正配置の推進について</p> <p>(1) 学校規模によるメリット・デメリットについて</p> <p>(2) 佐野市西中学校区小中一貫校整備事業について</p>	<p>接種化後の対象年齢は50歳からが適切だと考えるが、見解を伺う。</p> <p>③定期接種化後の市民への自己負担額について、見解を伺う。</p> <p>④これまでの公費助成事業の助成費用分について、今後の運用についての見解を伺う。</p> <p>①小規模化・大規模化・小中一貫校のメリットとデメリットについて伺う。</p> <p>②デメリットに対する対応について伺う。</p> <p>③適正規模、適正配置について、今後の見直しの可能性について伺う。</p> <p>①ハード面・ソフト面での整備状況の現状と課題について伺う。</p> <p>②課題への対応について伺う。</p> <p>③通学部会および関係組織等での通学路、通学手段（スクールバス等）、通学関連施設の整備等の検討事項について、現状と課題を伺う。</p> <p>④学校支援部会および関係組織等での学校と地域との連携、学校支援地域組織化等の検討事項について、現状と課題を伺う。</p> <p>⑤地域への説明状況等の現状について伺う</p> <p>⑥今後のスケジュールについて伺う。</p>
--	---

